

詳しい記事がNIAホームページからご覧になれます

発行 習志野市国際交流協会  
千葉県習志野市津田沼5-12-12  
サンロード津田沼6F 〒275-0016  
Tel&Fax 047-452-2650  
<http://www.nia08.com/>  
[niasquare@jcom.zaq.ne.jp](mailto:niasquare@jcom.zaq.ne.jp)

## タスカルーサ市公式訪問団 歓迎会が開かれました



**姉** 妹都市提携30周年を記念して、タスカルーサ市公式訪問団(代表ウォルター・マドックス市長)一行13名が、10月27日(木)から31日(月)までの日程で習志野市を訪れました。今回の訪問団は市長、巡回裁判所判事、アラバマ大学関係者、タスカルーサ国際姉妹都市協会理事、市民という顔ぶれでした。

**5** 日間という短い期間でしたが、市内の公共施設の見学や高校、小学校での交流と忙しい日程の中、10月30日(日)に国際交流協会主催の歓迎会が開催されました。

**夜** 景の素晴らしさや華やかな雰囲気から、「心よりのおもてなし」の場所として協会が考えたのが千葉工業

大学1号館20階の展望室です。ここでは大学関係者のご配慮により借りることができました。

**参** 加者は、協会会員はじめタスカルーサ市を以前訪問した青少年・市民・ホストファミリー・学校関係の方など100名を超えました。交流の輪が着実に広がっていることが実感できます。

**ア** トラクションとして、津軽三味線日本チャンピオンである土生(はぶ)みさおさんの演奏や、訪問団の有志による合唱披露の嬉しいハプニングなどもあり、参加した方々の語らいと記念写真の光景があらこちらで見られました。  
斉藤 富男(事務局長)

2/4  
sat

## 世界をつなぐふれあいフェスタ 第9回 ふれあい祭 開催!

**谷** 津干潟の自然に触れながら、会員・市民や在住外国人のみなさんが交流するひとときに参加しませんか。NIAの活動紹介・PRのほか、楽しいプログラムを用意しています。

- ◆日時: 2017(平成29)年2月4日(土) 10:00~15:00
- ◆場所: 谷津干潟自然観察センター
- ◆入場: 無料
- ◆主催: 習志野市国際交流協会

講演会「アオサの有効活用  
津田沼高等学校生物部がバイオエタノール製造に挑戦」  
講師: 吉田裕志氏(生物部顧問)  
2月4日(土) 13:00~レクチャールーム 先着100名

同時開催: 世界湿地の日イベント  
スタンプラリー、貝のモザイクアートづくり、お楽しみくじ、  
ジュニアレンジャーコーナー、軽食販売  
主催: 谷津干潟自然観察センター

# タスカルーサで青少年交流の補助を行いました 高校生派遣プログラムの大きな意義を知る

宮武 祐見 (元国際交流基金日米草の根交流コーディネーター)

**私**は、2013年から2015年までの2年間、タスカルーサ市にあるアラバマ大学とタスカルーサ国際姉妹都市協会で、日米草の根コーディネーターをしていました。その活動の中で、2014年にタスカルーサ市と習志野市の高校生が相互にそれぞれの地を訪れた際、活動の補助をしました。渡日前のタスカルーサ市の高校生に対し、2ヶ月間毎週日本についての勉強クラスを担当。日本語会話の練習、文化の紹介、料理、生徒による日本についての発表等を行いました。海外に出るのが初めて、アラバマを出るのが初めて、という生徒が多く、不安と緊張と期待と様々な思いを抱えていたのが印象的でした。

**後**日、習志野市から高校生が来た際、自分たちと同じもしくはそれ以上楽しませたいという思いで接しているタスカルーサの高校生やホームステイ先の方々を目にして、日米の絆の深まりを感じて胸が熱くなりました。そして「将来またアメリカにきます！大学に入ったら留学したい！」と最後に教えてくれた何人かの習志野市の高校生と接して、高校生という夢が広がる時期に派遣プログラムに参加する意義の大きさに改めて気づかされました。

**両**市の高校生たちにも話をしたのですが、私たちは一歩国を離れた瞬間、国の「代表」になります。海外では自分が「日本人（アメリカ人）」だということを自国にいる時以上に意識します。今まで考えなかったことや当たり前だと思っていたことに、「日本（アメリカ）はこういう時どうするの？」と質問を受けます。自国のことをよく知り、それを説明できるようにする、というのも大事なのだと思います。



楽しさ一杯、日米高校生のランチタイム



日本について勉強中のタスカルーサ高校生

## NI-Youthが食事会&スポーツ大会を行いました 異文化に触れて自分の世界が広がる

天野 真子 (NI-Youth)



**10**月22日（土）、NI-YouthはJR海浜幕張駅前のさくら水産にてランチ会の後、幕張海浜公園にてスポーツ大会を行いました。

**今**回はスポーツを通しての交流を目的としたところ、中国、台湾、韓国、ベトナム、アメリカなど15人の留学生の参加がありました。NI-Youthメンバーも含め全部で33人が秋晴れの下、赤青2チーム対抗戦で体を動かしました。

**一**つ目はフリスビードッジボール。初めのうちは緊張気味だった留学生たちですが、だんだん距離が縮まり、最後には心から打ち解けることができました。このように文化や言葉の垣根を越えて繋がれるのはスポーツならではの良さです。次は借り者競争です。これは走者がお題の書かれた紙を取り、それに合う

メンバーを見つけて一緒にゴールするというもの。中には漢字のふりがながないものもあり、日本語を勉強中の留学生には少し難しかった様子。でもそんな時はNI-Youthメンバーがすかさずアシスト。言葉の意味を説明したり英語に訳したりとチーム内の連携が鍵となりました。

**最**後の種目は大縄とび。赤組は持ち前のチームワークを発揮し29回を達成して優勝。青組は惜しくも準優勝となりました。終了後、全員で写真撮影とおしゃべりを楽しみ、最後まで笑顔と笑い声の絶えない素敵なイベントとなりました。

**私**は初めてのイベント参加でしたが、異なる文化背景を持つ人々と楽しい時間を共有でき、自分の世界が広がる良い機会になりました。

## ネイティブスピーカーを 囲んで英語でチャット

佐藤 洋子 (広報青年部会)

11 月26日、京成津田沼駅そばサンロード5階にて、外国人支援部会主催の「英語交流会」が開かれました。これは、毎週行われているALT (外国語指導助手) を囲んでチャット (おしゃべり) を楽しむ「マンデーチャット」のいわば拡大版。年に数回、土曜日の午後2時から4時まで2時間行なわれます。

今回は、ALT2名と姉妹都市タスカルーサ出身の男性1名、計3名のネイティブスピーカーがスピーキングの講師として来て下さいました。日本人参加者は17名。大人だけでなく、中学2年生が6名、高校1年生が1名。そしてなんとママに連れられて7歳の子も参加しました。参加者は3人の講師の各テーブルに分かれ、それぞれチャットを楽しみました。1時間経ったところで席替えをするので、複数のネイティブスピーカーやいろいろな参加者と話すことができます。「ネイティブの生英語に触れられて、発音とか、とても勉強になりました」と、中学生たち。高校生も、「こういう機会は初めて。いい経験になりました。またぜひ来たいです!」と、声をはずませます。大人たちも、「TPPは是か非か?」から「最近見て良かった映画は?」まで、硬軟さまざまな話題を活発に話しました。



## 茶道は日本人の 「おもてなし」の体現

紙透 繁 (日本語教室部会)

12 月5日(月)、7日(水)、8日(木)、日本語教室あすなる会の茶道教室が開かれました。参加者は学習者、ボランティア、行事スタッフあわせて48名でした。5日の教室では、日本語ボランティアの3名の講師が和服姿で迎えて下さいました。席主の進藤さん、亭主の田中さん、半東(亭主の補佐役)の勝又さんです。進藤さんから茶の湯の歴史を説明を拝聴しつつ、懐紙、黒文字(お菓자에添えるヨウジ)、お菓子を1人ずつとります。参加者はみんな初体験なので作法や礼法に不案内です。隣の人を見ながらお菓子を食べました。

よいよお茶です。田中さんが2碗点てるころを拝見しました。そしてみんなが順番に陰点(かけだて。客の前で点てずに水屋で点てて運ぶこと)してもらったお茶をいただきました。その後、参加者ほぼ全員が茶筌を使ってぎこちない手つきながら点ててみました。

てくださる人への礼、隣席の人への礼など礼法が難しかったです。そして亭主や半東さんはもちろん、客人(参加者)と同数ぐらいのスタッフが陰でバックアップして、この茶会が成立しています。茶道が日本人の「おもてなし」の体現であると思いました。



## 千葉県国際交流協会連絡協議会が香取市で開かれました

秋山 勝 (広報青年部会)

千葉県内の国際交流協会は年1回、現在と今後の活動について情報交換しています。その千葉県国際交流協会連絡協議会の第7回が11月8日(火)に香取市佐原で開催されました。今回の主催は香取市国際交流協会、県内各市の国際交流協会と千葉県、ちばコンベンションビューローから18団体33人が参加しました。全体会での主な発言としては「東京オリンピック・パラリンピックに向けて英語通訳ボランティアの養成」「財政難の悩み。運用資金がマイナス金利で減少」「協会と市民が離れているのが問題」「活動に外国人の参加を促し、外国人に住みよい街を目指す」などがあり、会員の高齢化や資金難は共通の課題でした。分科会では「インドネシア出身者が多いことから協会がイスラム文化を紹介する催しを実施」「在住外国人の考えや文化をもっと知る」「災害時での外国人サポーターを組織してきめ細かい対応に備える」などの意見や報告がありました。短い時間でしたが各協会それぞれの創意工夫が伺えたと同時に活動の充実に向けた熱意を感じました。



# 子供たちが世界に触れる小さな機会

江藤 美奈子（日本語教室部会）

11 月19日（土）、鷺沼小学校でPTA主催の「鷺っこまつり」が開催されました。習志野市国際交流協会の参加は一昨年に続き3回目です。今年も日本語教室の外国人学習者と小学生がたっぷり3時間、交流を楽しみました。7カ国（中国、コロンビア、フィリピン、ネパール、メキシコ、タイ、ベトナム）からの学習者10人と共に、日本人ボランティア15人もお手伝いしました。

児童たちは、教室の入口で「シールラリー台紙」をもらい、生徒用の机でしつらえた各国のコーナーを巡ります。机を挟んで外国人の前に立つと、大抵の子供は黙ってしまいます。学習者が明るく母国語で挨拶すると、英語の場合は、子供たちは直ぐに「ハロー」と返していましたが、他の国の言葉には馴染みがありません。ボランティアが通訳したり、また流暢な日本語で説明する学習者もいました。学習者と児童がお互いの名前を教え合い、握手をします。台紙には、その国の国旗シールを貼ってもらい、学習者の名前や簡単な挨拶を母語で書いてもらいました。外国の駄菓子をもらう時は、それはもう真剣に選びました。子供たちの知らない国も多く、世界に触れる小さな機会となりました。

美しい民族衣装を着用して参加した学習者は皆さんお綺麗で、私はつい見とれてしまいました。各国のコーナーには、民族衣装や装飾品、通貨、写真集などが展示され、興味を持った保護者が学習者と話し込む場面も見られました。終了間際には、何人かの学習者とボランティアが自発的に台紙をもらって、ラリーに参加しました。学習者にとっても、色々な国の人と日本語でコミュニケーションを取る良い機会になったようです。



## 受入と派遣の感想・報告冊子が事務局でご覧になれます



2016年6月、7月に実施された姉妹都市タスカルーサ市との青少年交流事業の報告。日米高校生をはじめ学校関係、ホストファミリー、引率、サポートボランティアのみなさんの感想と写真からなる交流体験記録です。訪問団の受入と派遣各1冊。

### 広報から

#### ● メールマガジンに読者登録を

スクウェアの電子版「メール・スクウェア」を毎月1回、配信しています。無料です。配信停止も自由です。配信をご希望の方はPCメールアドレス [niasquare@jcom.zaq.ne.jp](mailto:niasquare@jcom.zaq.ne.jp) まで。

#### ● 原稿をお寄せください

イベントや活動の報告、雑感、国際交流の体験など。投稿は事務局または [niasquare@jcom.zaq.ne.jp](mailto:niasquare@jcom.zaq.ne.jp) へ。

#### ● スクウェア編集部員を募集しています

 一緒に広報活動をやってみませんか。経験不問です。